

いわて平泉米だより

令和8年6月号



中干しを行い、活力のある稲を作りましょう

- 1株当たりの茎数が25本程度になったら、降雨が比較的少ない6月25日ごろから中干しを開始し、幼穂形成期(7月10日ごろ)までに終わらせてください。
- 田面に小さな亀裂が生じ、軽く踏んで足跡が付く程度が中干しの目安です。
- 中干しの後は、間断かんがいで管理し、幼穂形成期には深水4~6センチになるようにしましょう。一度に深水にすると酸素欠乏になり、根に障害が出る可能性があります。
- 中干しと併せて溝切りを実施することで、排水が良くなり、ガス抜きと酸素供給で根張りを良くします。秋作業の地耐力を高める効果も期待されます。

※カメムシ防除のために草刈りを行いましょう

カメムシの成虫は、年2~3回発生します。6月上旬の草刈りはカメムシの1回目の発生量を抑制し、その後の発生量も少なくする効果があります。地域で一斉に行うとより効果的ですので、計画的に実施しましょう。

LINE
公式アカウント



JAのLINE公式アカウントにおいて営農情報を発信します。
お友だち追加をお願いします。